

2014年5月8日 全8頁

アメリカ経済グラフポケット(2014年5月号)

2014年5月6日発表分までの主要経済指標

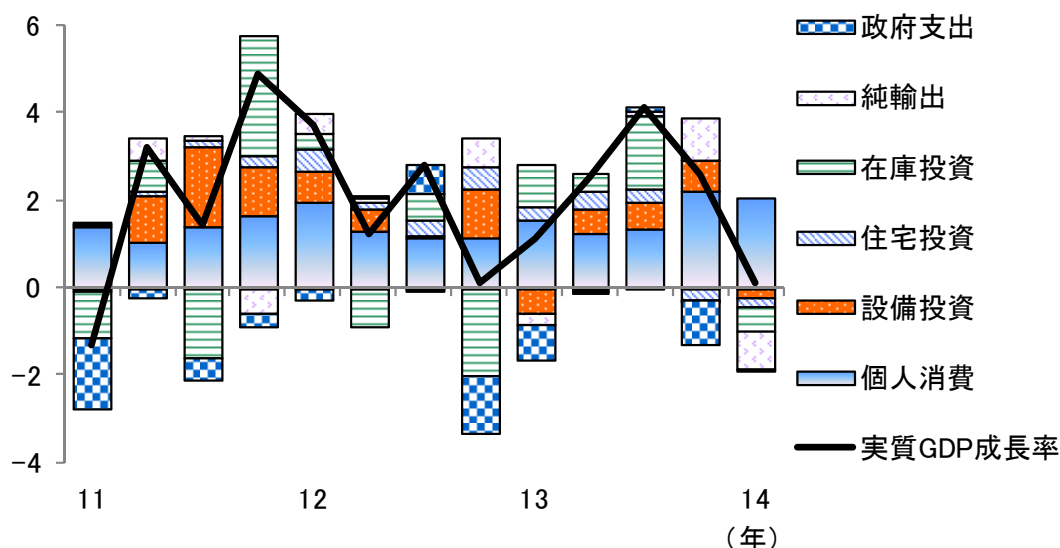
ニューヨークリサーチセンター

上野 まな美

エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



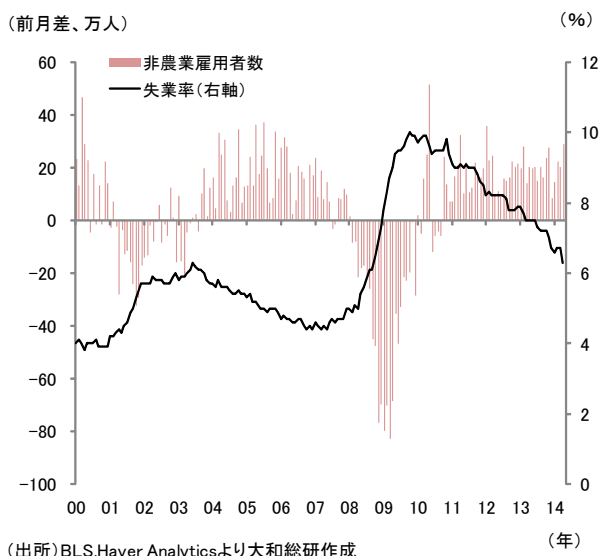
(前期比年率、%、%pt)	2012			2013				2014
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
国内総生産	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5	4.1	2.6	0.1
個人消費	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8	2.0	3.3	3.0
設備投資	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.7	4.8	5.7	-2.1
住宅投資	5.7	14.1	19.8	12.5	14.2	10.3	-7.9	-5.7
政府支出	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.4	0.4	-5.2	-0.5
輸出	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.0	3.9	9.5	-7.6
輸入	2.5	0.5	-3.1	0.6	6.9	2.4	1.5	-1.4
寄与度								
個人消費	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2	1.4	2.2	2.0
設備投資	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.6	0.6	0.7	-0.3
住宅投資	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4	0.3	-0.3	-0.2
在庫投資	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.4	1.7	-0.0	-0.6
政府支出	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.1	0.1	-1.0	-0.1
輸出	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.0	0.5	1.2	-1.1
輸入	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1	-0.4	-0.2	0.2

(出所) BEA, Haver Analytics より大和総研作成

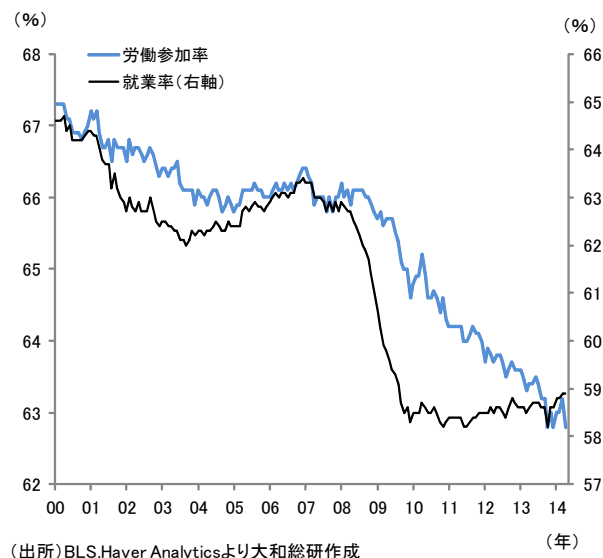
雇用環境¹

- ◆ 4月の失業率は6.3%で、前月から0.4%ポイント低下し、2008年9月以来の低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差28.8万人増となり、前月から増加幅が拡大した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は20.3万人増で、5ヵ月ぶりに20万人台に回復した。

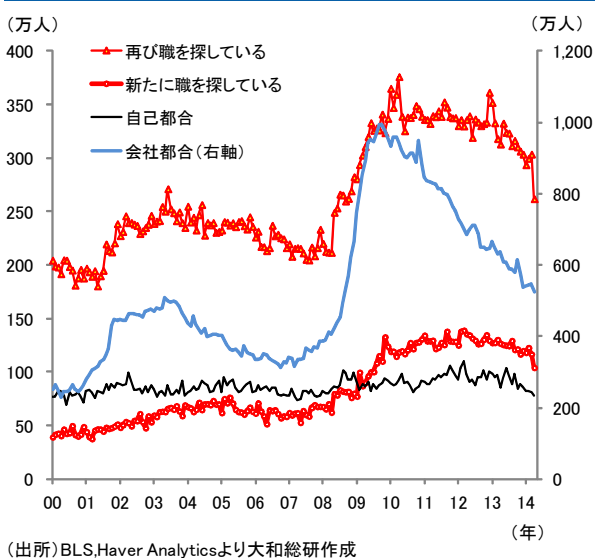
非農業雇用者数と失業率



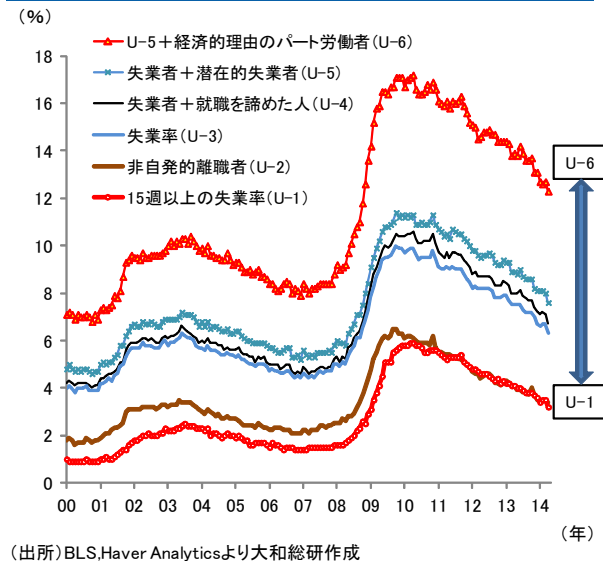
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

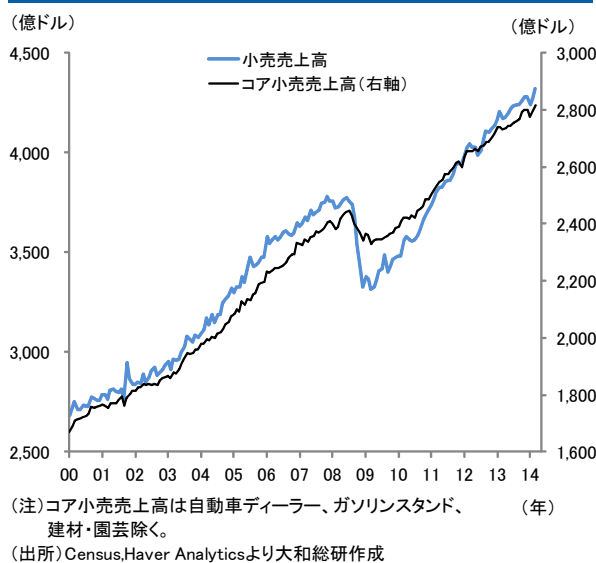


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「30万人に迫る雇用者数の増加」(2014年5月7日) 参照。 http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20140507_008499.html

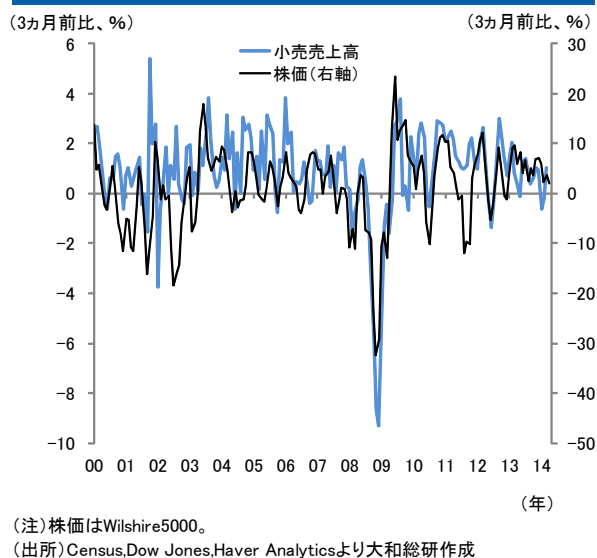
個人消費

- ◆ 3月の小売売上高は前月比1.2%増で、2012年8月以来最大の伸び率となった。悪天候の影響が和らぎ、自動車ディーラーやデパートを含む一般小売店など、幅広い業種の売上高が増加した。コア小売売上高も同0.9%増加した。
- ◆ 4月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の80.0から84.1に上昇し、2013年7月以来の高水準となった。現状判断及び先行き見通しともに上昇した。
- ◆ 4月の自動車販売台数は前月比2.2%減で、年率換算では1,604万台であった。前月から減少したものの、2ヵ月連続で1,600万台を超えた。

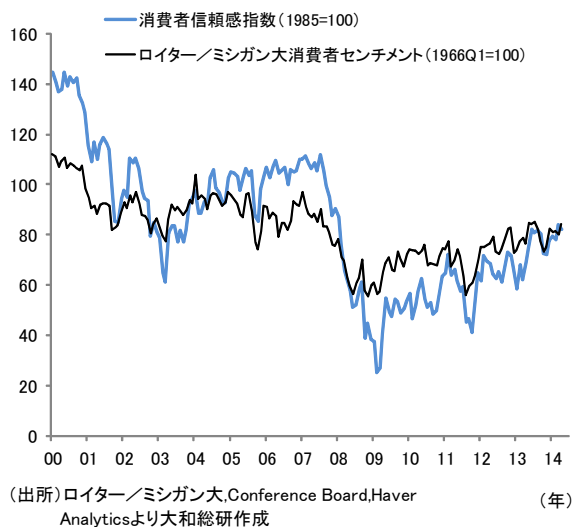
小売売上高の推移



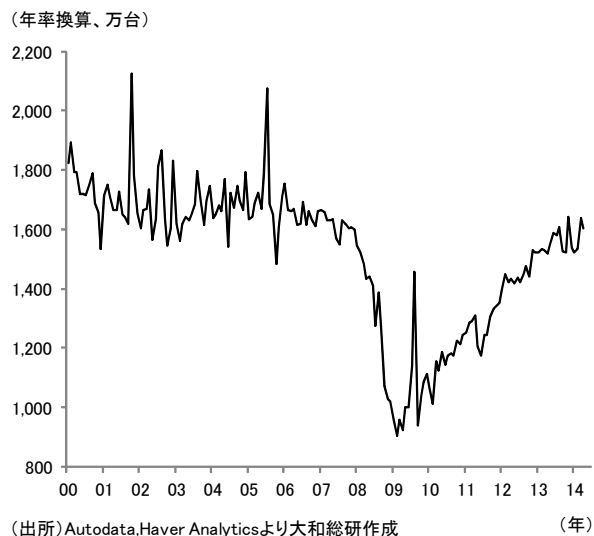
消費と株価



消費者マインド



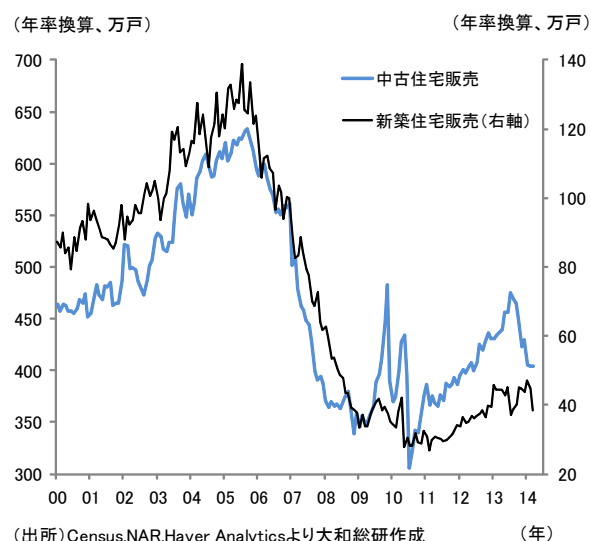
自動車販売台数



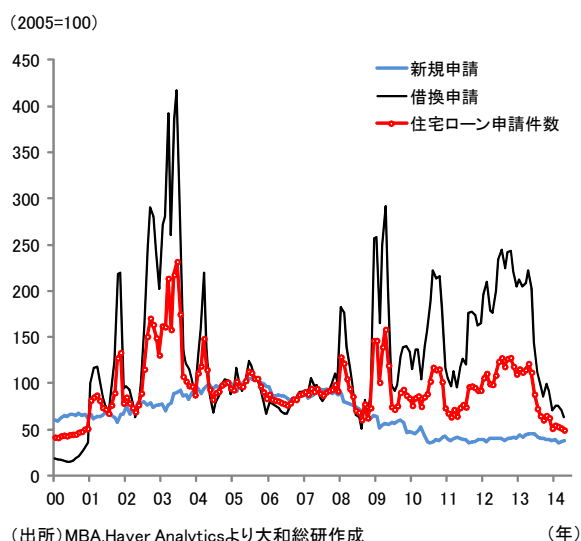
住宅市場

- ◆ 3月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は前月比2.8%増で、年率換算は94.6万戸であった。2ヵ月連続で増加し、悪天候の影響が和らいで徐々に回復しているものと見られる。
- ◆ 3月の中古住宅販売（一戸建て）は年率換算404.0万戸で、前月から変わらなかった。2013年8月以来、減少傾向となっている。
- ◆ 3月の新築住宅販売（一戸建て）は前月比14.5%減と大幅に減少し、年率換算で38.4万戸となり、2013年7月以来の低水準になった。
- ◆ 2月の住宅価格は引き続き上昇。ケースシラー住宅価格指数（20都市）は、2008年5月以来の高水準になった。

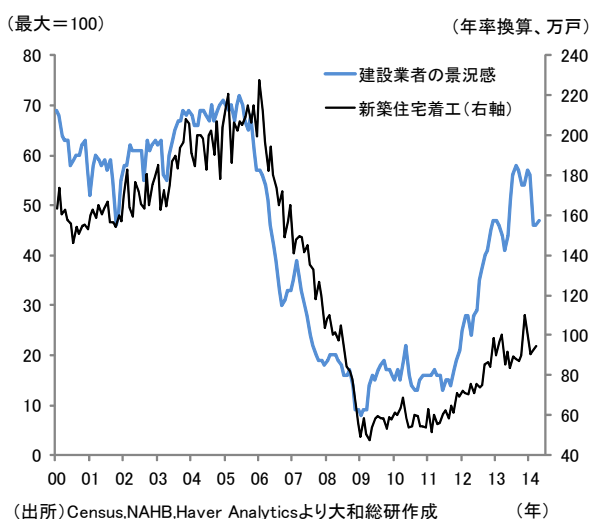
住宅販売（一戸建て）



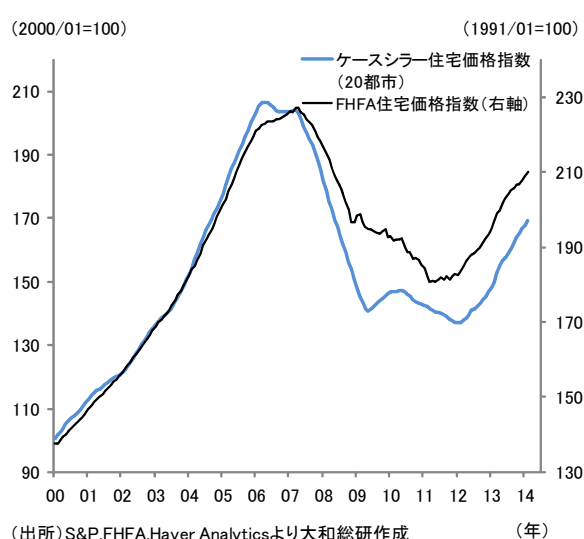
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



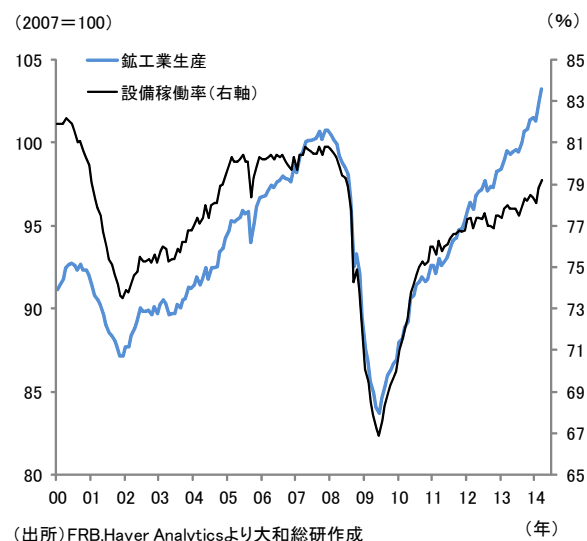
住宅価格



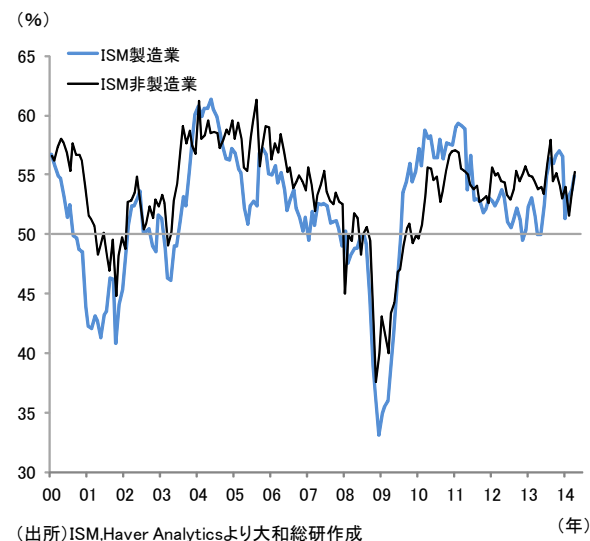
企業動向

- ◆ 3月の鉱工業生産指数は前月比0.7%上昇した。内訳の製造業も同0.5%上昇し、2ヵ月連続の上昇となった。
- ◆ 3月の国防・民間航空機を除く資本財受注は前月から増加に転じ、2013年1月以来の大幅な伸びである前月比3.5%増となった。
- ◆ 4月のISM製造業指数は前月比1.2%ポイント上昇し、2013年12月以来の高水準となった。非製造業指数も同2.1%ポイント上昇し、2013年8月以来の高水準となった。悪天候の影響が和らぎ、企業の景況感は改善しつつある。

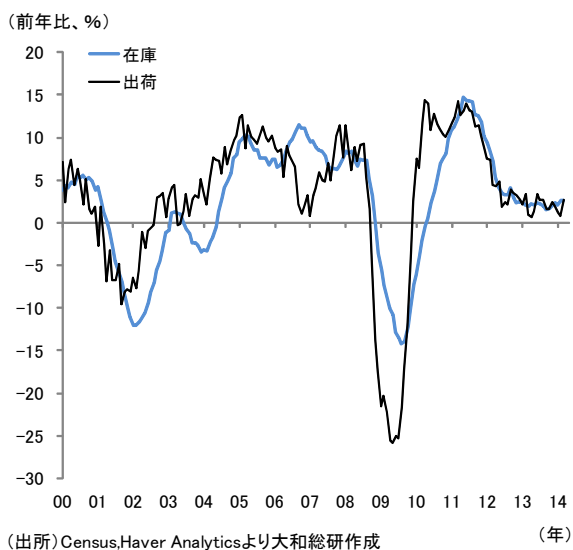
鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



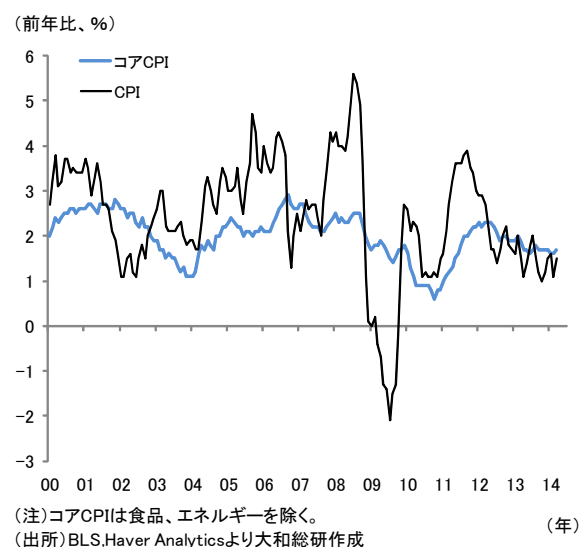
耐久財受注



物価動向

- ◆ 3 月の CPI（消費者物価指数）は前年比 1.5%増で、前月から伸び幅が拡大した。コア CPI は同 1.7%増と、引き続き安定している。
- ◆ 4 月末の WTI 原油先物価格は 99.74 ドル/バレルと、3 月末の 101.58 ドル/バレルから低下した。2014 年 1 月末以来、3 ヶ月ぶりに 100 ドル/バレルを割った。

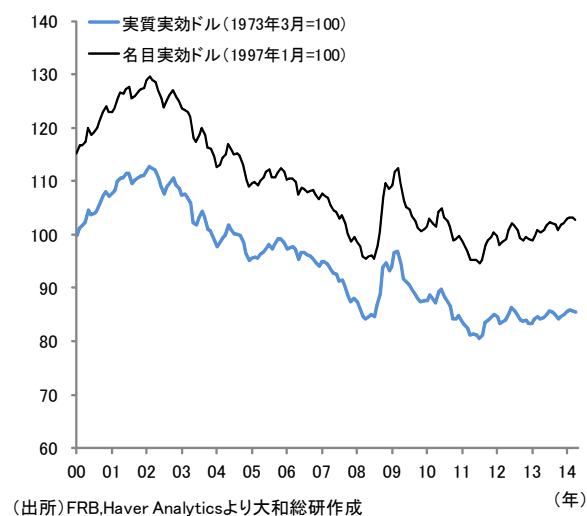
消費者物価指数



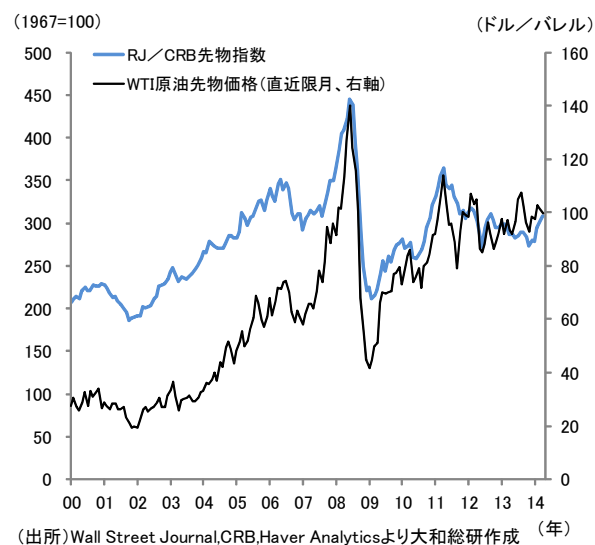
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



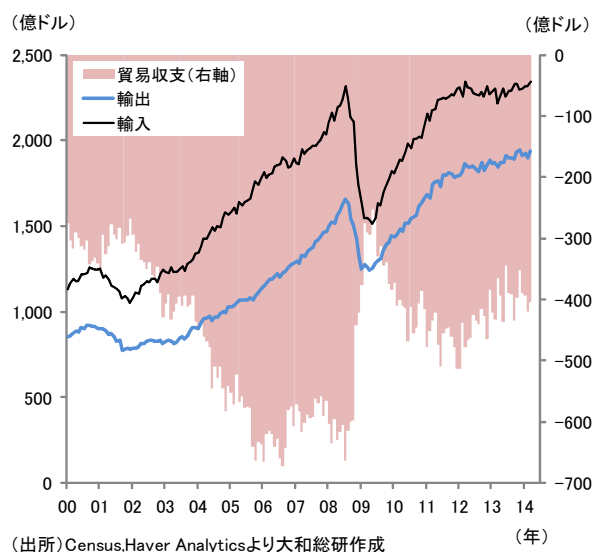
コモディティ価格



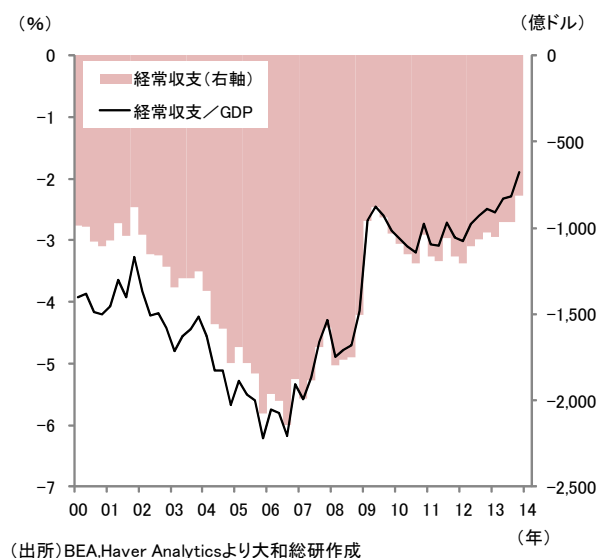
輸出入・経常収支

- ◆ 3月の貿易収支（財・サービス）は、404億ドルの赤字で、前月から赤字幅が縮小した。
- ◆ 輸出が前月比2.1%増加し、輸入も同1.1%増と揃って増加した。
- ◆ 地域別（財）では、中国、日本、欧州向けの輸出の前年比増加幅が拡大し、それぞれ前年比14.8%増、同8.2%増、同7.1%増となった。中国からの輸入が増加に転じ、前年比14.3%増となった。欧州からの輸入も同9.8%増加したが、日本からの輸入は同1.3%減であり、6ヵ月連続でマイナスが続いた。

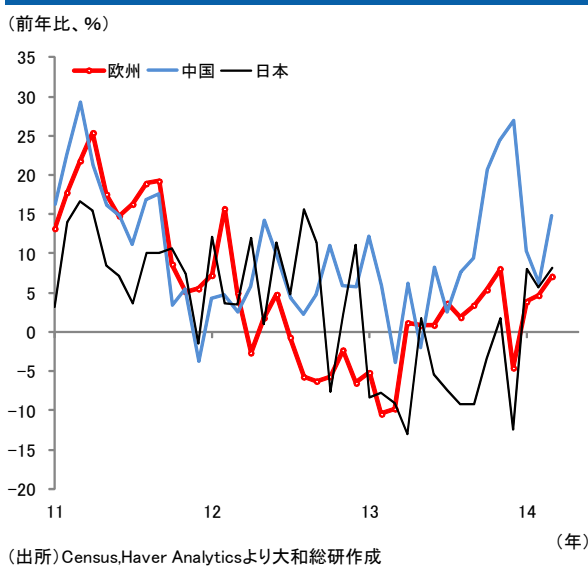
貿易収支動向



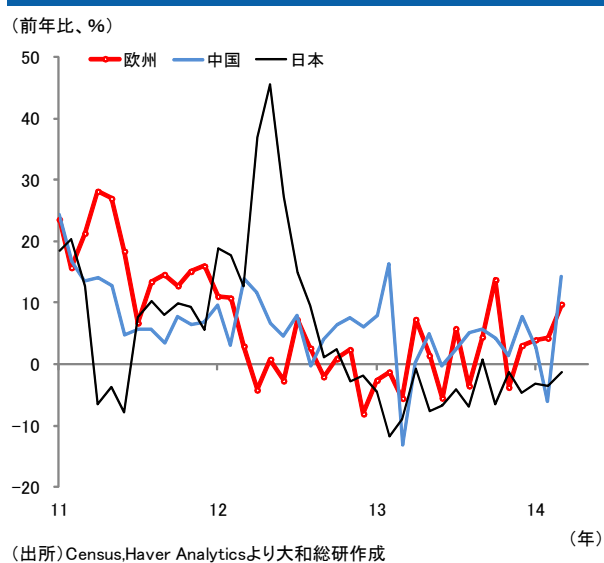
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



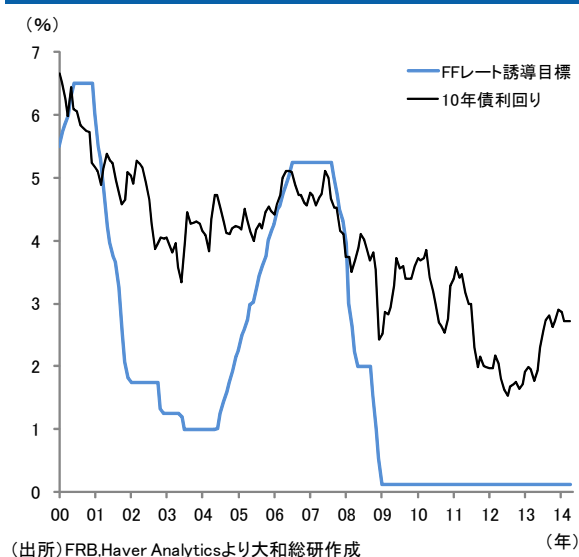
国・地域別輸入動向



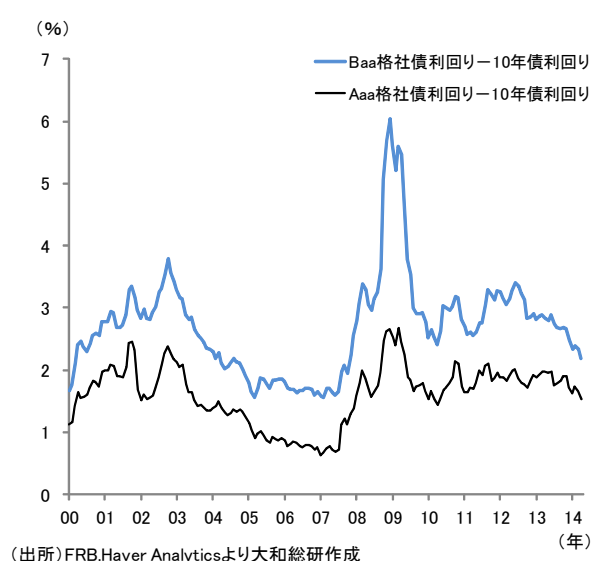
金融・財政

- ◆ 4月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.71%であった。2014年に入ってから、2013年末より低い水準で安定している。
- ◆ 4月のFOMCにおいて、QE3（量的緩和第3弾）の更なる縮小が発表された。5月からの毎月の買い入れ額は100億ドル減少し、450億ドルとなった。FRBの資産残高はQE3を受けて増加が続いており、直近の4月30日の週平均が約4兆3,400億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、赤字幅の縮小が続いている。

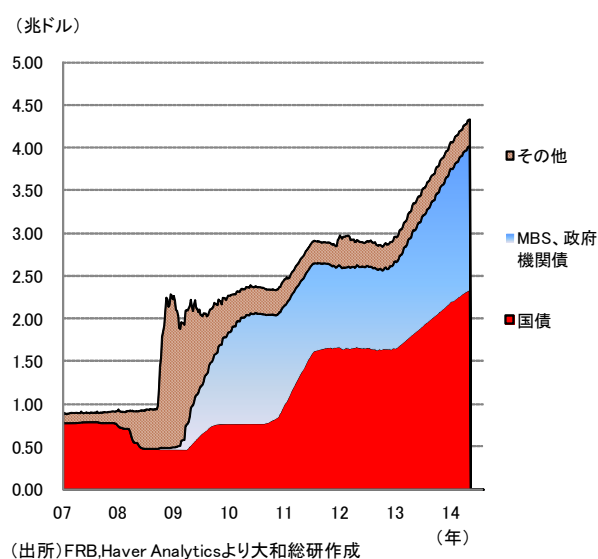
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

